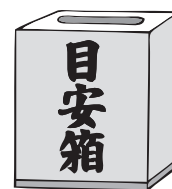


市民から見た 寄せられた ご意見

市では、市民の声を市政運営の参考とさせていただくために、市役所、各支所、出張所（すまいるプラザ）に目安箱を設置しております。このコーナーでは、平成21年4月から11月までに寄せられた28件のご意見のうち、主なものをお知らせします。



主 意 見	回 答
職員に対する意見（7件） ①職員の対応が良くない。 ②臨時職員の採用は、なぜいつも同じ人なのか。市の臨時募集がない。 ③来庁者用駐車場に職員の車が多く駐車している。	①職員には接遇研修を定期的に行い公務員意識の向上を図り、市民に対する不愉快な対応や失礼な言動がないように指導して参ります。 ②臨時職員の職種によってはある程度の経験を要する場合がありますので、業務に支障を来さないよう、雇用を継続することがあります。なお、緊急の雇用を公募することがありますので、市広報紙やホームページをご参照ください。 ③職員には来庁者用駐車場を利用しないよう指導して参ります。
牛潟地区に学童保育を要望する。	牛潟地区の学童保育は、開設に向けて関係機関と具体的な検討をして参ります。
休日保育の保育所（園）を増やして欲しい。（2件）	近年共働きの家庭や核家族化の傾向から、休日保育を望む方が多くなっております。休日保育を行うためには、保育士等の増員が必要となることから、すぐに実施することは困難ですが、実現に向けて検討して参ります。
柏中学校のスクールバスを冬期間要望する。（2件）	通学バスの運行基準は、学校からの距離が概ね半径6km以上となっています。市内他中学校の例もありますので、ご理解をお願いします。
日曜日の健診回数を増やして欲しい。	健診日程の調整や健診日ごとの対象地区の見直しなどを進め、受診しやすい健診体制の整備に努めて参ります。
市営住宅でペットの飼育は禁止なのに増えている。	ペット飼育の実態を調査し、入居者に動物飼育禁止の指導を強化して参ります。
デイサービス稲垣を土、日曜日にも利用できるようにして欲しい。	デイサービスの運営は、「つがる市社会福祉協議会」が行っており、ご意見について同協議会に報告し検討していただきました。その結果、土、日曜日に利用したい人がどれ位いるか、また、現在2カ所で実施している稲垣地区のデイサービス事業の運営曜日を変更できるかどうかも含めて調整及び検討するとの事でした。詳細については、同協議会へご相談ください。
自宅の庭でごみを燃やしている人がいて、煙と悪臭がひどい。注意するとトラブルになる。	野焼きの情報をいただいた場合は係が現地に出向き、野焼きは禁止されている旨の指導を行いますので、積極的な情報提供をお願いします。また、今後もパトロールの強化や、ごみの分別指導の徹底により環境保全に努めます。

以前に掲載した同様のご意見については掲載しておりませんのでご了承ください。また、寄せられた「ご意見」に対しましては、可能なものから速かに実施する体制をとっております。引き続き、市民の皆さまの市政に対するご意見をお待ちしております。

【問い合わせ先】総務課 電話42-2111（内線344）

路線バスを利用しましょう



現在つがる市内を走るバス路線は弘南バス株式会社の運行による9路線（注）があります。路線バスは高齢者、学生、車を運転しない方などの移動手段として長年利用されており、排気ガス等の環境負荷の軽減や交通渋滞の緩和などの役割も果たしています。

しかし少子化・過疎化の進行や、自家用車の普及などにより、バスの利用者は年々減少しています。国や県、路線バス沿線市町村は、路線バスを維持するために、バス事業者がバスを運行して赤字が出た部分を補助し、路線を維持しており、市は平成20年度には1,745万9千円を赤字負担として補助しています。

市では、利用実態を把握し、関係機関等と協議のうえ、運行便の減便やダイヤ改正など路線バスの見直しにより、バス交通環境の改善を図り、支出額を徐々に減らす努力をしています。

しかしながら、地域の足である路線バスを存続させるためには、まず路線バスが通過する沿線の地域住民のみなさんが積極的に利用することが路線バスの維持につながります。「地域の足は地域住民が自ら守る」という意識を持ち、一人でも多くの方が路線バスを利用し路線バスが運行を続けていけるよう、みなさんのご理解をよろしくお願いします。

（注）①鰯ヶ沢線 ②稲垣線 ③小泊線（十三経由）

④十三線 ⑤出来島線 ⑥鶴田線 ⑦豊川線 ⑧

南広森線 ⑨下繁田線

下水道使用料改定のお知らせ

市は下水道事業の経営健全化を図るため、下水道使用料改定について「つがる市下水道事業審議会」（林嗣郎会長ほか委員10名）に諮問し、平成21年11月に答申を受けました。市はこの答申内容を12月の市議会定例会に提案し条例改正案が議決されましたので、内容についてお知らせいたします。

下水道をご利用されている皆さまには、ご負担をお願いすることになりますが、今後も経営健全化に努めてまいりますので、使用料の改定についてご理解とご協力をお願いいたします。

【改定の内容】

平成22年4月使用分（5月請求分）から次のとおりとなります。

1. 公共下水道使用料

用 途 区 分	基本使用料(月額)	改定前	改定後
・一般用及び事業用A ・公衆浴場及び水泳プール用	10m ³ まで	1,000円	1,300円

※ 20m³使用の場合（月額・消費税込）：2,205円〈改定前〉→ 2,520円〈改定後〉

2. 農業集落排水（特定環境保全公共下水道含む）使用料

●一般用の世帯割額（月額）：1,000円〈改定前〉→ **1,300円〈改定後〉**

※ 3人家族の場合（月額・消費税込）：2,625円〈改定前〉→ 2,940円〈改定後〉

●事業用A、公衆浴場及び水泳プール用(月額)：1,000円〈改定前〉→ **1,300円〈改定後〉**

（審議会からの付帯意見）

- 水洗化率の向上については、最重要課題に掲げ、市職員全体で加入促進に取り組むなどあらゆる対策を講じて、向上に努めること。
- 未整備地区については、整備促進及び効率的な整備に努めること。
- 維持管理費については、経費の縮減に努めること。

【下水道経営状況】

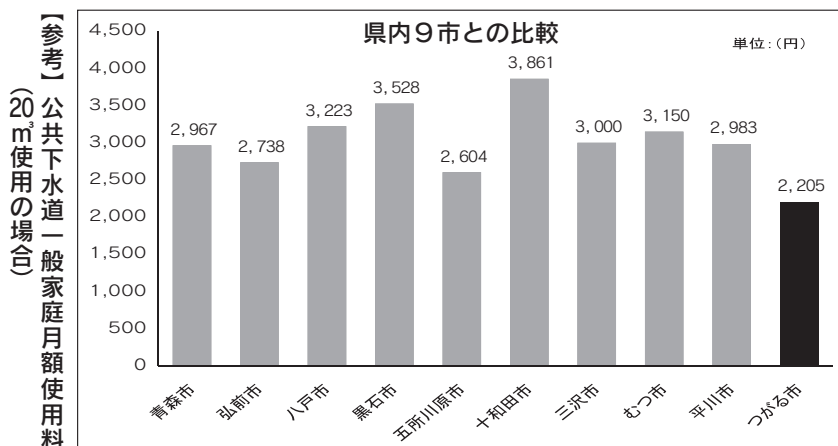
本来、下水道使用料は、汚水に係る維持管理費と市債（市借入金）の元利償還金に充てられます。これらの経費については、全て下水道使用料をもって賄うことが原則となっていますが、市の現状は供用開始からの使用料金を維持してきたことにより、使用料単価が安く、さらに加入率が低い使用料収入が少なくなっています。また、施設の維持管理費及び下水道建設費用として借り入れした市債の償還費用が多額となっているため、赤字補てん的な不足分を一般会計から多額の繰入金で賄っており、財政を圧迫する一因となっています。

このため、国からの指導もあり公営企業経営健全化計画を策定し、使用料の適正化、水洗化率の向上、維持管理費の経費削減等を経営課題に掲げ、健全化に向けて取り組んでいます。

○経営内容（20年度決算）

（公共：公共下水道、特環：特定環境保全公共下水道、農集：農業集落排水）

	加入率	歳 入			歳 出	
		使用料収入	一般会計繰入金		維持管理費	市債元利償還金
			うち基準外			
公 共	41.5%	3,311万 5 千円	1 億5,869万 8 千円	5,424万 6 千円	5,060万 8 千円	1 億9,267万 7 千円
特 環	34.8%	1,593万 3 千円	7,241万 3 千円	2,384万 7 千円	2,968万 2 千円	8,672万 6 千円
農 集	63.0%	1 億 971万 1 千円	3 億9,459万 7 千円	1 億4,866万 5 千円	1 億5,951万 1 千円	5 億1,038万 7 千円
合 計	54.3%	1 億5,875万 9 千円	6 億2,570万 8 千円	2 億2,675万 8 千円	2 億3,980万 1 千円	7 億8,979万円



トイレの水洗化により清潔で快適な環境になります



川や海がきれいになります



【問い合わせ先】

下水道課 電話42-2111(内線374)

厚生労働大臣表彰を受賞 成田徳一さん

多年にわたり民生委員児童委員として地域福祉の推進に尽力してきた成田徳一さん（富范町）がこのほど、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

成田さんは、昭和55年12月から28年間にわたり車力村民生委員児童委員として地域住民の生活相談、福祉思想の普及啓蒙など福祉行政向上に務めてきました。

受賞の報告に訪れた成田さんは「今回受賞できたのは、諸先輩方や同僚が支えてくれたおかげです。これからも地域の奉仕者として私たち独自の取り組みを展開しながら、住民が安心して暮らせるように活動していきます」と意気込みを語っていました。



受賞の報告とこれからの意気込みを話す成田さん

葛西教育長（左）に喜びの報告をする福島さん



金はいろんな人のために使われるお金であることがわかり、自分が今できる思いやりの心。将来はどんな人にも思いやりの心を持って接したい」という内容が書かれています。

同校では福島さんの他にも優秀賞に山谷姫頼莉さん（5年）、佳作に対馬志織さん（5年）が入選しました。

共同募金作文コンクールで最優秀賞を受賞 —福島永子さん（瑞穂小3年）—

（社）青森県共同募金会が主催する赤い羽根共同募金作文コンクール小学生の部で瑞穂小学校（一戸瑞校長）の福島永子さん（瑞穂小3年）が最優秀賞を受賞し、葛西教育長へ喜びの報告をしました。

福島さんは3年生になってから宿題に出される作文がきっかけで書くことが好きになり、日頃から家のことや家族で出かけたことなどを書いているそうです。

今回の受賞作品は「えがおのおんがえし」という題名で、「募

具だくさんのつがるちゃん豚汁を味わう児童



地産地消で「つがるちゃん豚汁」登場

市栄養教諭・学校栄養士部会は11月を「ふるさと産品給食の日」期間として、市のマスコットキャラクターにあやかかった「つがるちゃん豚汁」を11月25日、学校給食のメニューに取り入れました。

豚汁の具は、市ブランド農産物のナガイモ、ゴボウ、ネギに加え、市産の大根、白菜、県産豚肉を使用。25日は木造中学校と穂波小学校の生徒児童が味わいました。

穂波小の児童たちは、地元食材がふんだんに入った豚汁を口にすると「うまい、おいしー」と喜んで食べ、クラスでも食べっぷりが良く野菜が大好きな長谷川泰道君（5年）は「ナガイモがいちばんおいしーなあ」とおかわりをしていました。



高齢者世帯を巡回する交通安全関係団体の皆さん

事故や犯罪に注意！高齢者に呼び掛け

市は11月26日、高齢者を交通事故、振り込め詐欺、悪質商法から守ろうとシルバー世帯訪問を行いました。

訪問は民生委員、市交通安全母の会連合会、つがる地区交通安全協会、つがる警察署などが協働で木造地区100戸を巡回。訪問先ではミニLEDライトと反射材付きエコバックを配りながら、「日暮れが早くなったので、夜間の歩行時には反射材を付けてくださいね」と声を掛けていました。

また、振り込め詐欺や悪質な訪問販売の手口を紹介したチラシを配り、注意を呼び掛けていました。

患者らにスコップ三味線演奏を披露する友の会の皆さん



「クリスマス」ロビーコンサート

来院や入院している患者に一早いクリスマスを味わってもらおうと成人病センターが12月7日、クリスマスロビーコンサートを行いました。

今年で9回目となるコンサートは、特別ゲストにシルバー人材センター友の会を招き、スコップ三味線の演奏が披露され、患者たちを魅了。引き続き、職員たちがサンタクロースの衣装で登場し、バンド演奏に合わせてクリスマスソングや演歌などを歌い、患者たちは手拍子をしながら心弾むひとときを楽しんでいました。

丹精込め手作業で作られる門松



す。門松作りのピークは12月中旬で、県内や首都圏から約500対の注文があるそうです。

おいしいリンゴいかが!リンゴ販売体験

柏小学校（坂本徹校長）の4年生56人が12月1日、総合的な学習の一環としてリンゴの効能をたくさんの人に知ってもらおうと、イオンモールつがる柏でリンゴ販売体験を行いました。

児童たちは柏地区のリンゴ農家の協力を得ながら、春からリンゴの木を管理し、実すぐり、袋かけ、葉とりなどを体験。この日は10月下旬に収穫した「ふじ」18箱を1袋3個入り150円で販売しました。児童たちが「いらっしやいませー。私たちが作ったおいしいリンゴはいかがですか。」と元気な声で売り込むと、買い物客は足を止めて1袋、2袋と買い求めていました。

また、おいしいリンゴの見分け方や品種ごとの特徴、デザートレシピを記した手作りのパンフレットを買い物客に手渡していました。



掛け声に合わせて餅をつく向陽小の児童

交通事故防止を願い「餅つき会」

冬の交通安全県民運動の一環としてつがる地区交通安全協会が12月10日、向陽小学校児童や交通安全関係団体ら約120人が参加して、交通安全餅つき会を行いました。

同協会の桜庭修会長は「事故が減るように交通安全を願って餅をつきましょう」とあいさつし、児童たちは「ヨイショ、ヨイショ」の掛け声に合わせて、持ち慣れない杵で餅をついていました。

また、つがる警察署前の道路では街頭指導も行われ「交通事故に気をつけて運転してください」と呼び掛けながらドライバーにチラシを配布しました。

新年の福願い門松作り

正月の縁起物である門松作りが11月30日から、さとう農園（佐藤史成社長・木造菰槌）で始まりました。

同農園での門松作りは1989（平成元）年から始まり、クロマツと青竹に縄の結び目で梅の花を付け、松竹梅をあしらっています。青竹は節の部分が笑顔に見えるよう切りそろえられ、ナンテンやしめ飾りなどを付けて完成。大きさは大型で高さ1.6m、中型が1.2m、小型が0.8mの3種類を主に作っています。

佐藤さんは「門松を買ってくれた人たちが、1年間笑って過ごせるように」と願いを込め、毎年作っているそうで



自分たちで育てたリンゴを販売する児童たち